

## 令和7年度第2回山形県特定鳥獣保護管理検討委員会 発言趣旨

1 日時 令和7年10月29日（水）13時30分～16時30分

2 開催方法 オンライン（Teams）

### 3 委員（敬称略）

鈴木正嗣（岐阜大学）、江成広斗（山形大学）、山内貴義（岩手大学）、藤本竜輔（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）、丸山哲也（栃木県林業センター研究部森林チーム）、遠藤春男（山形県猟友会）、片桐弘一（山形県獣医師会）、佐藤寧（山形県農業協同組合中央会）、清野一男（山形市）、野口勝世（最上町）、富取千代子（米沢市）、小野寺レイナ（鶴岡市、斎藤秀一郎の代理）、木内真一（山形県みどり自然課）、下山智弘（山形県農村計画課、杉山裕秀の代理）

### 4 発言趣旨

#### （1）令和6年度鳥獣による農作物被害について（報告）

（事務局）

説明

#### イノシシによる農作物被害額について

（丸山委員）

- 被害が大きい作物が、ブドウやオウトウと記載されているが、果樹は木の上に実をつけるものであるため、こういった被害の形態なのか。

（事務局）

- 確認して明らかにしたい。  
（会議後既に説明済）

#### （2）第3期山形県イノシシ管理計画（素案）について（報告・協議）

（事務局）

説明

#### 捕獲方針・計画策定について

（丸山委員）

- 雌の捕獲を強化していくとあるが、雌を選択的に捕獲する方法はあるのか。ないのであれば、強調して書く必要はないのではないか。
- 箱わなの捕獲数が少ないとのことだが、箱わなで捕獲できるのは幼獣が多く、親が学習してしまうため気をつける必要がある。
- 最新の野生イノシシの豚熱陽性件数について掲載すべきではないか。

#### 電気柵・侵入防止柵について

（丸山委員）

- 市町村アンケートによる電気柵設置対策実施状況で、効果がないと回答している地点については、重点的に指導していく必要があるのではないか。

(江成委員)

- ・ 資料13、14のグラフの表示方法について注意する必要がある。資料14について言えば平成27年から電気柵設置距離が増加しているのにもかかわらず、農作物被害が増えているように感じる。
- ・ 県内に設置された侵入防止柵について適切に管理されているのは2割程度しかないとあるが、実際に現地調査して算出された結果なのか。

(事務局)

- ・ 専門家によるアドバイスを元に記載しているが、県で数値を把握しているものではないため、記載を変更する。

**モニタリング・研究機関連携について**

(丸山委員)

- ・ モニタリング調査で、研究機関とはどのように関わるのか。

(事務局)

- ・ 県で市町村アンケートについて分析を行い、さらに山形大学といった専門機関でデータの分析、専門的な知見を踏まえて評価・分析を行っていききたい。

(丸山委員)

- ・ 県の研究機関で、モニタリング調査データを蓄積させる必要があるのではないか。行政側でデータを管理すると、数年でデータを廃棄してしまうこともあるため。

**個体数調査・制度に関して**

(山内委員)

- ・ 推定生息頭数は何をもとに出しているのか。現状だと増えているのか、減っているのかが分からない。

(事務局)

- ・ 生息頭数については、豚熱発生によって令和3年、4年と減少したものの、令和5年以降増加に転じていると認識している。

(山内委員)

- ・ 他県では、個体数調査方法は詳しく説明するために別紙で記載していることもある。個体数調査について説明がもう少しほしい。

**錯誤捕獲への対応**

(江成委員)

- ・ 錯誤捕獲の対応で、「箱わなの上部に脱出口を設けたものを使用するように」とあるが、逆に餌付け場になってしまう可能性がある。その場合、箱わなの見回り時に偶発的に出くわして被害にあう可能性が十分にあり、脱出口の必要性に再検討するべきである。
- ・ またくくりわなでの錯誤捕獲が続くと、くくりわなが使えないと解釈してしまう書き方であるため、書き方を検討する必要がある。

**(3) 第4期山形県ツキノワグマ管理計画の進捗状況について (報告)**

(事務局)

説明

**人身被害と対策の在り方**

(江成委員)

- ・ クマによる人身被害の目標が0であるが、すでに発生している状況である。目標が達成できていないので、どうやって対策を行うかを考えていく必要がある。

(事務局)

- ・ 人身被害の防止のために、藪の刈払い等手を尽くしている状況。

(江成委員)

- ・ 当委員会だけで緊急性の高いクマ対応を考えるのはすでに限界なのではないか。クマだけでも議論する会議の場を別に設ける必要があるのではないかと考える。

#### 錯誤捕獲への対応

(江成委員)

- ・ 錯誤捕獲対応のための人材や購入補助を行っているが、錯誤捕獲の対応実績はあるのか。

(事務局)

- ・ 現時点ではない。

(江成委員)

- ・ 錯誤捕獲に対応する予算は県が支払うのか。

(事務局)

- ・ 現在は県で支払っているが、今後中間支援組織を立ち上げるための議論のなかで、市町村とともに線引きを考えていきたいと考えている。

(鶴岡市)

- ・ 放獣する際の指針はあるか。

(事務局)

- ・ 現時点ではない。

(鶴岡市)

- ・ 麻醉銃の使用者を、置賜といった他の地域に展開する予定はあるのか。

(事務局)

- ・ 現時点ではない。

#### 推定生息頭数について

(鶴岡市)

- ・ 生息頭数の推定の仕方をカメラトラップに変更することのだが、旧調査方法でのデータと比較できなくなるがどのように考えているか、また旧調査と比較するための変数等準備しているか。

(事務局)

- ・ カメラトラップは推定生息頭数を算出する目的ではないため、比較になじまないと考えている。

#### 緊急銃猟について

(鈴木委員)

- ・ 緊急銃猟での、対応内容を明確にする必要がある。今後のクマ対応のためにも、特にどんな銃、弾を使用したのか等、射撃後のクマの状況をまとめておく必要がある。

#### クマに対する社会的認識

(鈴木委員)

- ・ クマはほかの野生鳥獣と違って、保護対象の考えが残っている。一方、最近の人身事故等を踏まえ、捕獲しろ、駆除しろ、根絶しろという意見も強まっている。また北海道の猟友会は、緊急銃猟への協力に否定的な見解を表明している。こういった多様な意見が混在している点を認識しなければならない。

#### (4) 第2期山形県ニホンジカ管理計画の進捗状況について (報告)

(事務局)

説明

## 狩猟カレンダーと捕獲データとの精度

### (丸山委員)

- ・ 狩猟カレンダーの提出が低いとのことだが、実際の捕獲数に対してカレンダーで報告された捕獲数は何割くらいか。

### (事務局)

- ・ 100頭ほど狩猟で捕獲しているが、そのうち80頭については狩猟カレンダーでも報告が上がっている。だが錯誤捕獲等を考慮すると6~7割くらいなのではないかと考える。

### (丸山委員)

- ・ 狩猟カレンダーを行うのであれば、わなの延べ設置数、わなの設置の分布、目撃の分布の分析を行った方がよい。

### (鈴木委員)

- ・ 狩猟カレンダーの提出率を上げるために、県の猟友会の年報に記載してはいかがか。

### (事務局)

- ・ 検討する。

## 農作物被害・林業被害の整理と把握

### (江成委員)

- ・ 文章の中で、農林業被害と農作物被害の2つの標記が使われている。どちらが正しいか。

### (事務局)

- ・ 農作物被害が正しいため、統一する。

### (江成委員)

- ・ 林業被害についても、農作物被害と同様に、把握・評価する必要がある。
- ・ 二ホンジカ対策が遅れると、電気柵を導入したとしても突破される事例は多いため、早め早めの対応が重要で、柵の普及をどうやって進めるかが大切である。
- ・ 市町村アンケートを用いて、二ホンジカに対応できる柵がどの程度導入しているかを明らかにする必要がある。また米沢市や置賜で、農作物被害があるのにもかかわらず、柵を導入していない点は問題である。

## 非捕獲事例について

### (鶴岡市)

- ・ 非捕獲件数（列車、交通事故での件数）を含めたものにしてはいかがか。

### (事務局)

- ・ 検討したい。

## 生息動向について

### (丸山委員)

- ・ 生息動向の指標①について、捕獲数と目撃数の図を別々に分けた図を作成したほうがよい。

### (事務局)

- ・ 次回までに分けて作成したい。

## (5) 第4期山形県二ホンザル管理計画の進捗状況について（報告）

### (事務局)

説明

## 人身被害の目標と実績の乖離について

### (丸山委員)

- ・ 人身被害の防止の令和3年度の目標と実績にずれがある。

(事務局)

- ・ 表記の仕方について検討する。

**大型箱わなの実態と課題**

(江成委員)

- ・ 大型のわなの設置数について、私が把握している情報と乖離がある。市町村アンケートでの回答よりも多いのではないか。
- ・ 大型のわなで効果がないと回答している市町村が多い。おそらく、大型構造物のため、本来置くべきところ設置できていないためと考えられる。また、設置場所によっては、人なれしたサルによって人身事故を誘発する可能性があり、県として設置場所について把握し、適正に指導する必要がある。

(鈴木委員)

- ・ 大型のわなについては、場所の問題、捕獲の方法の問題があり、沢山捕獲できるからといって、安易に大型のわなを導入するのは問題であり、かえって人身事故を増やす可能性がある。

**被害地区の対策の実施・目標達成の課題**

(江成委員)

- ・ 資料(3)1について目標達成が困難な見通しとの説明があったが、その状況に対してどのような対策をすべきかを考える必要がある。県が対策を示して議論するためにこの場があると認識しているので、対策が示されていないのは問題である。何かあれば個別にでも相談に乗るので具体的な対策案を示してほしい。

(6) その他

**クマの増加・被害の深刻化と遺伝子研究の必要性**

(猟友会 遠藤委員)

- ・ クマの被害が多く、人を襲うクマが増えているため、遺伝子研究を行ってはいかがか。

**メディア等による誤った熊対策情報の拡散と対応の必要性**

(江成委員)

- ・ 市町村やメディアを通して、明確な根拠に基づかない誤ったクマ対策の情報が流れており、県民が混乱している。正しい対策の普及を行うために、市町村に対しても個別に話し合いの場を設ける必要があるのではないか。

(鈴木委員)

- ・ 鳥獣害対策に光、におい、音は効果がないというのは20年も前に農研機構の研究者等により検証されている。クマ対策でも多くの誤った情報が流れている点にも注意が必要である。